

EMERGENCY WATCH

No. 101 May 2019



神戸こども初期急病センター

2019年4月
受診者数
2169人

疾患頻度

1. 急性上気道炎	614人
2. 感染性腸炎	441人
3. 咽頭炎	146人
4. 喘息	141人
5. 気管支炎	138人



インフルエンザは合計59名、内訳はA型16名、B型43名でした。昨シーズンはB型1800名以上受診されましたが、今シーズンは現在まで74名です。

これから梅雨に入り、夏になると増えてくる感染症があります。こどもの三大夏風邪とも言われたりする「プール熱」「手足口病」「ヘルパンギーナ」です。今回は、その中のプール熱に対する素朴な疑問に答えます。

Q、プール熱ってなに？

正式名称は咽頭結膜熱です。発熱、咽頭炎、眼症状を主とする小児の急性ウイルス性感染症であり、病原体は数種の型のアデノウイルス(主に3型)によります。通常夏期(まれに冬期)に地域で流行することがあり、小規模アウトブレイクとして、散発的にも発生します。

Q、どうして「プール熱」っていうの？

夏、プールが盛んな時期に感染することが多いため、「プール熱」と名付けられています。感染している人の唾液や鼻水などの気道分泌物からうつります。また、実際プールで感染することもあり、プールを介した場合には、汚染した水から結膜への直接侵入と考えられています。そのため、プールを介しての流行に対してはプールの塩素濃度を適正*に維持することが対策となると言われています。

* 適正とは:厚生労働省(遊泳用プールの衛生基準)より、水質基準として遊離残留塩素濃度が0.4mg/L以上、1.0mg/L以下とされています。

Q、どんな症状がでるの？

高熱・咽頭痛・眼球結膜充血などの症状が出ます。熱は持続日数が長くなりがちで、のども痛くなるため、水分や食事を摂りにくくなってしまうことがあります。

Q、治療は何があるの？

抗生物質は効かないウイルス感染のため、対症療法のみです。鎮咳去痰薬や解熱薬の投与を行います。また、眼科的治療として点眼薬の投与が必要になることもあります。水分が摂れず脱水の兆候が認められる場合は点滴を行ったりします。

予防としては、

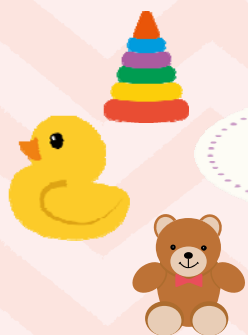
- ①感染者との密接な接触を避けること、
- ②流行時にうがいや手指の消毒を励行することがあげられます。

基本的な手洗いうがいで避けられる可能性があります。皆様ご注意ください。

発行：神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門

EMERGENCY WATCH

特別連載 こどもの事故 part 2



ゴールデンウィークも終わり新緑がまぶしくなってきました。そして暑くなってきましたね。外出する機会も増えてきたのではないのでしょうか。

こどもの事故といえば最近信号待ちの保育園児の集団に自動車が入り込み2名の小さく尊い命が失われたニュースが記憶に新しいのではないのでしょうか。日本国中が悲しみました。ご遺族の心痛はいかばかりかとお察しします。これは保護者や保育所がどれだけ注意していたとしても避けることのできなかった事故です。そして運転者の注意不足が招いた事故です。運転者を擁護するつもりはないですが、「ヒトは間違いを起こす」ものです。安全運転装置や信号待ち歩行者の防護壁などのシステムが今後開発され常用されることを願います。

このように現在のシステムやテクノロジーでは防ぎ得ない事故もある一方で、事故のメカニズムがわかっていて防ぐことのできる事故があります。我々小児救急にかかわる医師はシステム改善の提言を国や社会におこなうとともに皆さんこどもの保護者に予防できる事故のポイントについてお知らせすることが使命と考えています。

さて、こどもの事故part2です。今回は暑い季節を迎える前に熱中症についてです。この原稿を書いている5月12日時点で消防庁発表2019年の熱中症搬送件数の全国累計はすでに785名を数えています。

今年の夏は暑かったですね、熱中症に関するニュースも毎日のように流れていました。私も救急外来で何人も熱中症で運ばれてくる患者さんを診察しました。多くは成人、特にご老人だったのですが子どもたちも運ばれてきました。熱中症の予防についてはテレビでも特集が組まれてきたと思います。要素は暑くて湿度の高い「環境」と高齢者・乳幼児、脱水などの体調不良等の「身体」の要因が中心です。また、最近では暑さ指数(WBGT)という指標が重要視されるようになり、数値の予報もされています。詳しくは環境省の熱中症HPをご覧ください。→



さて、こどもの熱中症の中で最も痛ましい結果は死亡です。死亡に至る熱中症にはどのようなものがあるのでしょうか？その多くは毎年のように報道されている「車内放置による熱中症死」です。

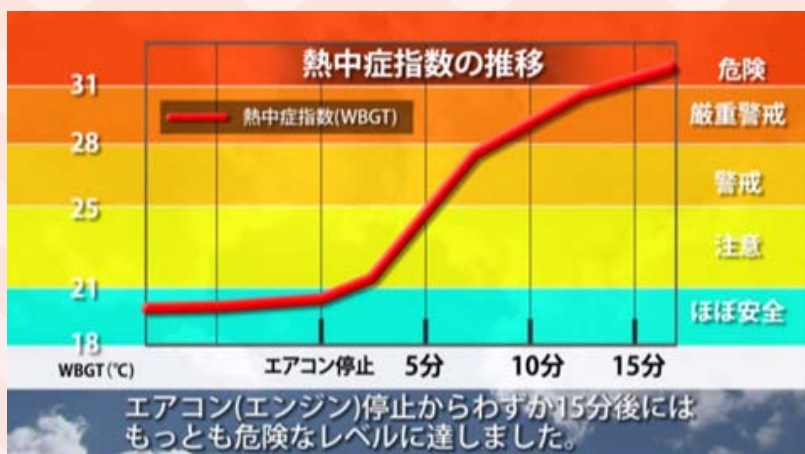
5月のある晴れた日のことです。1歳のBちゃんは車に乗ってお出かけです。チャイルドシートはしっかりしました。安全確認オーケー！車に乗ってスーパーまでレッツゴー！Bちゃんはぐずって昨日あまり眠れなかったので車の振動でスーパーに着く前にいつの間にか寝てしまいました。しばらくしてBちゃんが起きるとそこには誰もいません。ものすごく暑くてそして身動きが取れずにBちゃんは辛くて泣きだしてしまいました。泣いても誰も来てくれません。暑さでぐらぐらしてきて泣くのもしんどくなってBちゃんはぐったりしていました。しばらくすると見知らぬおじさんが近づいてきました。おじさんは何か叫ぶと車の窓をどンドンたたきました。恐ろしかったけどBちゃんはもう泣く元気もありませんでした。



次にBちゃんが気付くと明るい白い部屋にいてお父さんお母さんが心配そうにこっちを見ている。体はだるいけどうれしくて泣きだしてしまいました。あのおじさんは助けてくれようとしていたんですね。

Bちゃんの保護者はすやすや寝ているBちゃんをそのまま寝かしておこうという気持ちとほんのちょっとで済む用事だからと自動車内にBちゃんを置いて行ってしまったのです。おじさんの機転で助かって本当によかったです。

さて、車内に子どもを置き去りにしてしまったBちゃんの保護者は数少ない珍しい人なのでしょうか？JAF（日本自動車協会）が調べた子供の車内事故データをみると、子どもを車内放置したことがある方は28.2%もいるのです。つまり約1/3の方は子どもを「車内放置」しているのです。そしてその理由で目立つのが「ちょっとの間」というキーワードです。



ではちょっとの間なら子供は車内で安全なんでしょうか？こちらもJAFのデータですが、わずか15分で炎天下の車内は「暑さ指数の危険域」である31°Cに達しています。ほんのちょっとのつもりでも、買いたいものを選んでレジ待ちをして会計をして買ったものを袋に詰めたら15分はあっという間に経ちます。

JAF 「真夏の車内温度」テスト結果より

ちょっとの間であってもこどもの車内放置はやめましょうね。車内放置は熱中症を起こすだけではなく、車内放置された3歳のお子さんが行方不明になって数日後に川の中でご遺体で見つかった例もあります。(2018年1月)

日本の約二倍の人口をもつアメリカでは次のようなデータも出ています。年平均38名のこどもが車内放置による熱中症で死亡しており、その半分以上は2歳未満、そして驚くことに全体の54%が「こどもを車内に忘れた」という状況で起こったということです。信じられないかもしれませんが、実は日本でも「こどもを車内に残していたことを忘れていた」という車内放置による熱中症死は毎年存在します。「忘れていた」、頭を抱えてしまうような理由ですが一番最初にも書いた通り「ヒトは間違いを起こす」ものです。例えば財布やカバンをチャイルドシートの近くに置いておけば車を降りるときにチャイルドシートに乗ったわが子を思い出す。これも一つの工夫ですかね。

暑い時期を迎える前に熱中症の話題から車内放置の危険性のお話を書きました。

「ちょっとの間だから」は絶対ダメです。あと、日常生活にはいろいろ気になることが多いと思いますがこどもを「車にのせたことを忘れた」りしないようにお願いします。

